

# いろいろにゆうすがありまして

やぶやぶにゆうすの感想、大藪保険への感想をお寄せください。

office@yabuyabu.com

体験記

## 大腸検査』を

### 受けてきました！

#### 「大腸検査』を 受けてきました

プロデューサーの仲山です。先日大腸検査を受けてきましたので、レポートしたいと思います。

今回受けてきたのは大腸内視鏡検査、いわゆる大腸カメラです。1年に1回受けていまして、今年で3回目でした。

検査を受けるきっかけになったのが、2015年に俳優の今井雅之さんが末期の大腸がんであることを告白してからわずか一ヶ月で死亡くなりました。好きな俳優さんだったのでショックでした。

昨今、大腸がんにかかる方は増加傾向にあります。大腸がんによる死亡数は胃がんを抜いて第2位になりました。男性はおよそ11人に1人、女性はおよそ13人に1人が、一生のうち大腸がんを診断されています。そんな中、大腸がんは女性のがんによる死亡数の第1位！皆さんご存知でしたか？

大腸がんと闘った芸能人は、女優の坂口良子さん(57歳没)、深浦加奈子(48歳没)さんが有名です。まだ命を落とすには早いかと誰もが感じたのではないのでしょうか。

女性の罹患率が高いのは、女性は大腸検査を受けるのに抵抗があるから、そして発見が遅れるからとも言われています。なので「では私が身をもって体験してみよう！」と2018年から毎年検査を受けています。私の主治医の先生も「40歳を過ぎたら、1〜2年に1度は大腸カメラを受けることをおすすめします」とおっしゃっていました。そうすることにより、進行ガン大腸がんになる前の段階の

大腸ポリープや早期大腸がんを発見することができ、外科治療も行うことなく、内視鏡治療で治療することもできるそうです。

実際の検査はというと、お尻から内視鏡を入れますし、無痛ではありません。10分くらいでしようか、痛みは耐えながら、モニターに映された自分の大腸を見ることがになります。「ポリープありませんように！」と祈る気持ちで深呼吸をしながら10分耐えま



## 大腸カメラを受けてみませんか？

それよりもつらいのが「下剤」です。私は朝の9時から検査だったので、朝の5時に起きて2リットルの下剤を飲み始めます。3時間かけてゆっくりです。もちろん、その間は自宅のリビングとトイレを行ったり来たり…。その腹痛の方がつらかったかも。意外と先生の前での恥ずかしさはなかったです。ここが女性と男性の違いですかね。でも命を落とすのと先生にお尻を見られるのどっちがいいですか？内視鏡が発達した日本において、大腸がんで命を落とすのは非常にもつたいなことです。今からでも遅くないです。進行大腸がんになって慌てふためく前に、大腸カメラを受けてみませんか？



## 高齢の母との面会が かないません

95歳の母が故郷仙台におります。高齢ですので施設におります。

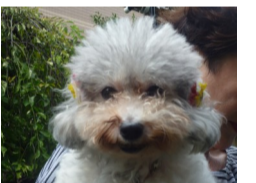
なにぶんにも高齢ですのでグループホームの方が介護士さんの目も行き届くはずでした。が食事後に転倒、大腿骨を骨折しました。

それから過酷な手術、入院生活を送りグループホームに変える事が出来ましたが、何をやるにも人の手を借りる事になり負担を感じているようです。こうなると痴呆が進んだ方が心の負担は少ない。なまじ正常な95歳の脳には情けない、申し訳ない、早くお迎えが来てほしい。地元に住む妹も会う度に嘆いている。私の心も折れそうになる。こんな時に飛んでいきたいのですが、コロナで関東圏の訪問はご遠慮ください。との事

です。PCR検査受けて行ったら面会できますか？との施設への質問には個別の案件にはお答えしかねます。(ふん)。お役所返事かい？)まあそうですよね、万が一コロナウイルスが持ち込まれたら、施設のお年寄りは大変な事になりますから。高齢の母との面会がかないません。私の顔を見たらきつと元気になる！でも会えない。今は携帯で動画画面で話したりしています。が、もどかしい！知らんふりして変装して北海道からの従姉が会いに来ました。って筋立てはいかがなもんか？やります。でも「GO TOトラベル」やっていますよ。良いのかい関東圏の人移動しますよ！

調べました、現時点でいくらウイズコロナであろうとも「GO TOトラベル」であろうとも病院の入院お見舞い、老人施設への訪問はほとんどの機関は面会謝絶でした。

## すももちゃんのママ



ご近所に可愛い男の子がいます。名前は「こうちゃん」。やっと歩けるようになったこうちゃんは好奇心がいっぱい何でも触りますが、動くわんこはちょっと苦手、そんなこうちゃんのママはすももとメママが散歩していると必ず話かけてくれました。そしてこうちゃんにすももを触らせて仲良しになりました。最初は怖がって、尻込みしていたこうちゃんも次第に慣れてきてすももと仲良しになりました。メママとは知り合い程度かな、そして急なすももの死、こうちゃんの家の前を通ると必ず「すももちゃん」って飛んで来てくれます。どうしよう！

しばらくはメママを連れての散歩は道を変えて、でも全く通らないわけには行きません。すると「すももちゃんのママ、(編集長の事です) すももちゃんは何？」

「うーん」すももちゃんは天国に行ってしまったの、まだ幼いこうちゃんにこの事実をどう伝えようか？こうちゃんに手紙を書きました。それからはこうちゃんに会ってもすももちゃんは？って聞かれなくなりました。

そしてこうちゃんはコロナの中、小学1年生になりました。その間にメママも亡くなり(18の大往生)こうちゃんにばったり会いました。「僕の初めてのわんこのお友達ですももちゃんなんだよ、すももちゃんに会ったからわんこは平気になったんだ。」

「こうちゃんありがとう！すももちゃんもおばちゃんも嬉しいわ」まだ蒸し暑さが残る9月、家まで100メートルあるか、ないか、すももちゃんの人間のママはみっともないのですが、涙をぼろぼろこぼしながら帰りました。

我が家には先代の柴犬の玲緒(15歳で老衰のため死亡)メメ、すももと愛犬がいましたが、面白いものですね、玲緒の時に会った方はいまだに玲緒ちゃんのママって呼んでくれます。

メメの時代はメメちゃんのママ、わんこの歴史が感じられます。そんな私のお勧めの本があります。今年の直木賞を受賞した馳星周氏の「少年と犬」そして「雨降る森の犬」もお勧め、前作は号泣、後作は涙が止まらない。興味がありましたらお読みください。(編集長杉山)

## こんにちは 赤ちゃん



また老人施設は面会謝絶で入居のお年寄りの痴呆が進んでいるようです。これも心配なことです。残念ですが受け入れるしかありません。



関東圏からの施設訪問はこんな感じに、私の弟が母の顔をみたいとお願いしたらフェースシールド防犯服の重装備で、その後母はとても疲れたそうです。施設内の立ち入り禁止、玄関先の対面でした。

## 編集後記

このにゆうすをお届けするにあたり、編集会議などという大それたものではなく、こんな記事載せたいね、こんな事どうしよう？と意見交換をします。春先からコロナの話に終始しているから、少し流れを変えたいというのが社員の希望でした。でも裏面はコロナが出てしまいました。まさにウイズコロナ、コロナと向きあって暮らしていくようになったのです。コロナの中で生まれた赤ちゃん、コロナのお年寄り、悲喜こもごも人生そのものと感じています。皆様どうぞコロナにはお気を付けてください。

大藪保険スタッフ一同